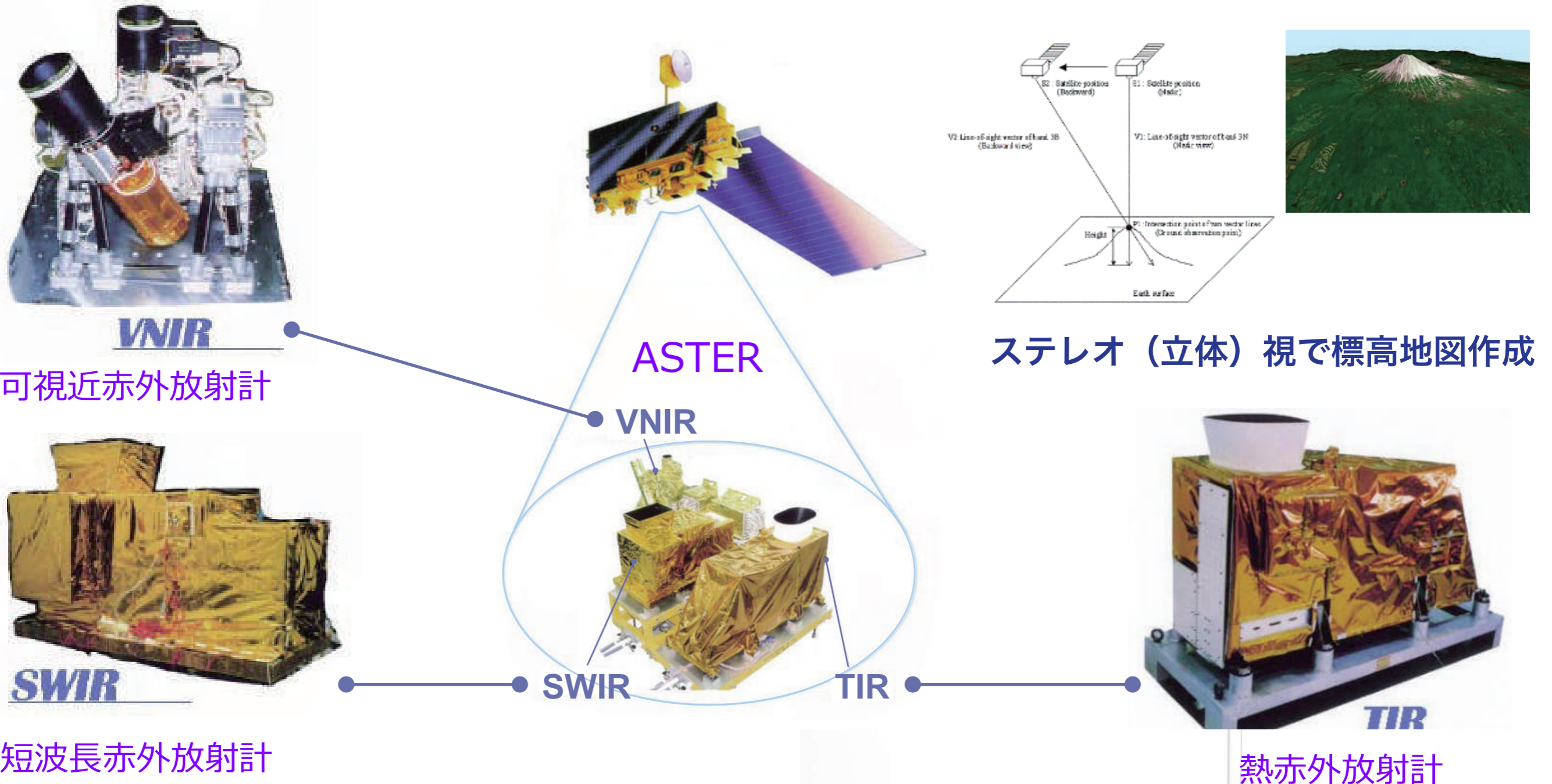


地球環境研究を支えるパナソニックの技術

膨大な地球観測衛星データの長期保存を光ディスクで実現

ASTERは地球観測を目的とした衛星センサの総称です。VNIR, SWIR, TIRの3センサで構成されています。NASAと産総研 地質調査総合センターが現在共同運用中です。1999年の打上から約20年分のデータを蓄積し、地球環境の変化を記録しています。このデータを100年後の人類も利用できるように光ディスクで保存しています。



● 衛星データの保存

地質調査総合センターから配布しているASTERのデータ総量は、圧縮してもおよそ330テラバイト（330,000ギガバイト）あります。これは高画質のテレビ番組を約3時間録画できるブルーレイ（Blu-ray）ディスク13,200枚分に相当します。

NASAから送られてくる処理前のデータやバックアップも含めると、ペタバイト（1,000テラバイト）のデータを保存する必要があります。

CD、DVD、Blu-rayディスクの寿命は10～30年と言われていています。膨大な衛星データを数10年後、100年後の研究者も使えるように、パナソニック株式会社と共同で、Blu-ray後継規格のアーカイバルディスク（光ディスク）を用いて、長期保存する研究に取り組んでいます。



光ディスクアーカイブシステム (freeze-ray)